

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	428	3年	後期	臨床検査学科	必修	臨床微生物学実習 Practice in Clinical Microbiology	45	1
担当教員								
美間 健彦	藤井 萌							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
臨床微生物学で学んだ各種微生物の特徴と感染症を理解し、各種感染症の起炎菌である病原微生物の検出方法、薬剤感受性試験および薬剤耐性菌の検出方法および同定法を修得する。								
到達目標（授業目標）								
① 各種感染症の起炎菌である病原微生物の分離および同定方法を修得する。								
② 分離した感染症の起炎菌の薬剤感受性試験法および判定方法を修得する。								
授業計画（項目・内容与方法・担当者）								
回								
1回	呼吸器系感染症起炎菌の検査法（1）：咽頭拭い液などの検体採取方法、呼吸器系感染症起炎菌の塗抹検査法、分離培養検査法を行う。							
2回	呼吸器系感染症起炎菌の検査法（2）：咽頭拭い液などの検体採取方法、呼吸器系感染症起炎菌の塗抹検査法、分離培養検査法を行う。							
3回	呼吸器系感染症起炎菌の検査法（3）：呼吸器系感染症起炎菌の塗抹検査と分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う。							

4回	呼吸器系感染症起炎菌の検査法（4）：呼吸器系感染症起炎菌の塗抹検査と分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う。
5回	呼吸器系感染症起炎菌の検査法（5）：呼吸器系感染症起炎菌の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる。薬剤感受性試験の結果についての判定を行う。
6回	呼吸器系感染症起炎菌の検査法（6）：呼吸器系感染症起炎菌の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる。薬剤感受性試験の結果についての判定を行う。
7回	腸管系感染症起炎菌の検査法（1）：便の検体採取方法、腸管系感染症起炎菌の分離培養検査法を行う。
8回	腸管系感染症起炎菌の検査法（2）：便の検体採取方法、腸管系感染症起炎菌の分離培養検査法を行う。
9回	腸管系感染症起炎菌の検査法（3）：腸管系感染症起炎菌の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う。
10回	腸管系感染症起炎菌の検査法（4）：腸管系感染症起炎菌の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う。
11回	腸管系感染症起炎菌の検査法（5）：腸管系感染症起炎菌の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う。
12回	腸管系感染症起炎菌の検査法（6）：腸管系感染症起炎菌の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う。
13回	髄膜炎、菌血症・敗血症起炎菌の検査法（1）：髄膜炎起炎菌、菌血症・敗血症起炎菌の塗抹検査法を行う。
14回	髄膜炎、菌血症・敗血症起炎菌の検査法（2）：髄膜炎起炎菌、菌血症・敗血症起炎菌の塗抹検査法を行う。
15回	抗酸菌検査法（1）：抗酸菌の塗抹検査法（抗酸菌染色）を行う。
16回	抗酸菌検査法（2）：抗酸菌の塗抹検査法（抗酸菌染色）を行う。
17回	真菌の検査法（1）：皮膚表在組織病変部からの検体採取方法、酵母様真菌の分離培養、酵母様真菌・糸状菌スライドカルチャー法、糸状菌の巨大培養法を行う。真菌の集落および形態の観察を行う。
18回	真菌の検査法（2）：皮膚表在組織病変部からの検体採取方法、酵母様真菌の分離培養、酵母様真菌・糸状菌スライドカルチャー法、糸状菌の巨大培養法を行う。真菌の集落および形態の観察を行う。
19回	性感染症（1）：性感染症、尿路感染症起炎菌（尿）の培養検査法、塗抹検査法を行う。
20回	性感染症（2）：性感染症、尿路感染症起炎菌（尿）の培養検査法、塗抹検査法を行う。
21回	その他の検査（1）：遺伝子・蛋白検査法（PCR検査、質量分析法など）、迅速診断技術について実習する。
22回	その他の検査（2）：遺伝子・蛋白検査法（PCR検査、質量分析法など）、迅速診断技術について実習する。
23回	精度管理と検査結果：精度管理とサーベイランス、検査結果の解析と評価について実習する。
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

筆記試験（50%）と実習ノート（50%）で評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	微生物学実習書を配布する。 JAMT技術教本シリーズ「臨床微生物検査技術教本」（丸善出版）
参考図書等	森田耕司 編「微生物検査学 実習書」（医歯薬出版株式会社）

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

微生物学、臨床微生物学Iおよび微生物学実習で配布したプリントまたは教科書等を参考に復習する。次回の項目について微生物学実習書、臨床微生物学実習書および臨床微生物検査技術教本等を参考に予習する。

関連科目

前科目	424	微生物学	425	臨床微生物学Ⅰ	426	臨床微生物学Ⅱ	427	微生物学実習	444	臨地実習Ⅰ
後科目	442	院内感染管理学	445	臨地実習Ⅱ	446	臨地実習Ⅲ	447	医学検査診断学Ⅰ		

実務家教員

